

財 団 概 要

名 称：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英 字 名 称：The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
設 立：2007年6月25日
公益財団法人移行日：2011年9月27日
所 轄 行 政 庁：内閣府
設 立 代 表：縄英明
所 在 地：東京都港区六本木6-2-31
役 員 一 覧：理 事 長 佐々木 康行
常務理事 田中 美代子
理 事 青木 庸三
理 事 上村 成彦
理 事 小澤 紀美子
理 事 小松崎 和夫
理 事 菅野 耕自
理 事 高梨 圭二
理 事 村上 秀徳
理 事 谷村 邦久
監 事 増田 正志
監 事 山田 洋一
評 議 員 浅利 美鈴
評 議 員 稲垣 晴彦
評 議 員 荷堂 真紀
評 議 員 鎌形 浩史
評 議 員 高橋 俊夫
評 議 員 並木 茂夫
評 議 員 柊 巖
評 議 員 宮林 茂幸
評 議 員 望月 千世子
評 議 員 安井 至
評 議 員 米村 洋一
(2021年12月現在)



公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

2021 事業活動報告書

Activity Report 2021

<https://www.cocacola-zaidan.jp/>



この事業活動報告書では、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が行った、2021年4月～2022年3月までの活動内容を記載しています。

2020事業報告書は下記URLからご覧いただけます。

<https://www.cocacola-zaidan.jp/summary/pdf/ActivityReport2021.pdf>

次世代を担う青少年の育成を目指して

当財団は、2007年6月、「心豊かでたくましい人づくり」を理念とし、コカ・コーラが事業を日本で開始して50周年を迎えることを契機に、財団法人日本コカ・コーラボトラーズ育英会(1970年設立)とコカ・コーラ環境教育財団(1994年設立)を統合し、多様な社会貢献活動を一元的に運営・推進できる母体として設立されました。5年目を迎えた2011年、「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」への移行申請を行い、9月27日付けにて内閣総理大臣より認定通知を受け、新たな一歩を踏み出しました。設立以来、次世代を担う青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を目的とし、教育分野での事業を中心に継続して実施しております。

コカ・コーラシステム全体が取り組むべき新たなサステナビリティ戦略との整合性を図るため、また、国際社会共通の目標であるSDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)の推進を図るために、昨年、2020年度は、主要事業活動について見直しを行いました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業活動を十分に行うことがかなわず、2021年度を見直した事業の本格的な実施年度といたしました。

「環境教育事業」については、昨年延期した「第27回コカ・コーラ環境教育賞」の開催を前提に、進化案により計画いたしました。コロナ禍のため、事業計画を変更し、選考、表彰式まで一連の活動をリモート形式にて行いました。

「奨学支援事業」については、2020年度に募集し、給付額を引き上げた2021年度の奨学生30名が、新大学生、新大学院生(修士課程)として入学しました。また、オンラインシステムも本格導入し、昨年に引き続き作業の効率化を図っております。

「復興支援事業」については、東日本大震災への支援活動が2021年3月で終期を迎えました。一方、近年、世界的にも自然災害や新型コロナウイルス感染症、他により、社会生活が大きく変化してきております。

このような社会状況の下、私たちは、公益財団法人の活動を拡大し、自然災害、新型コロナウイルス感染症等によって被害を受けた地域社会の復旧・復興を支援するため、「災害復旧・復興支援事業」を行うことといたしました。2021年11月には、支援活動の実施にあたり「コカ・コーラ復興支援基金」の名称を「コカ・コーラ災害復旧・復興支援」事業とし、内閣府への「事業名称の変更」「支援地域の拡大」「事業内容の拡大」に伴う申請に必要とされる届け出を行い、正式に受理され完了いたしました。

気候変動、社会情勢の変化、経済不安の中、世界各地に広がり続ける新型コロナウイルス感染症は、未だ収束が見通せず、人々の生活や社会は不安や混乱の中、新たな価値観を創出しようとしています。

私ども「コカ・コーラ教育・環境財団」も、“新たな常態”の中、持続可能な社会の実現を目指し、社会の変化、価値の変化に即した事業を企画・提供することにより、これからも国際社会が求める青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成に貢献してまいりたいと考えております。



公益財団法人
コカ・コーラ教育・環境財団
理事長

佐々木 康行

2021年	
4月	1日：奨学支援事業／2021年度奨学生30名を採用。 3日：内閣府へ、2021年度事業計画・収支予算書などについて提出(理事会：2021年3月19日)。 7日：「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」、福島県立葵高等学校にて最終研修プログラム(OJT)を実施。 9日：環境教育推進法「体験の機会の場合」認定制度／コカ・コーラ環境ハウス認定(2021年3月)、リリース配信：環境省・北海道庁・コカ・コーラ環境ハウス・財団にて同時発表。
5月	28日：2020年度(2020.4.1～2021.3.31)事業報告および収支決算について監事の監査を受け、承認を得る。
6月	1日：理事会を開催。 30日：内閣府へ2020年度事業報告などの提出。「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」22の自治体・非営利法人(NPO)の決定、前期分寄付金の送付。 ：評議員会を開催。
7月	1日：「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」、福島県立原町高等学校にて最終研修(OJT)プログラム実施(オンライン)。 9日：「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」、熊本県立熊本北高校にて最終研修(OJT)プログラム実施(オンライン)。 16日：理事会(書面)を開催。
8月	27日：理事会を開催。
9月	6日：奨学支援事業／2022年度奨学生募集開始、リリースを配信。奨学生の応募用オンラインアカウント登録開始。奨学生の応募開始(～10月31日)。 26日・27日：「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」、熊本県立人吉高等学校にて2日間研修プログラム(オンライン)実施。 27日：奨学生の応募開始 (～10月31日)。
10月	20日：内閣府へ変更届提出：公益目的事業4「災害復旧・復興支援事業」受理完了(11月1日)。 ：奨学支援事業／第1次(書面)選考、第2次(面接)選考を実施。奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定(～12月)。
11月	1日：第27回コカ・コーラ環境教育賞／募集開始(～12月15日)、リリースを配信。環境教育賞特設サイト開設。 12日：理事会を開催。 13日：「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」、熊本県立人吉高校にて最終研修プログラム終了(オンライン)。 30日：「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」後期分寄付金の送金(22団体)。
12月	15日：評議員会を開催。

2022年	
1月	13日：第27回コカ・コーラ環境教育賞／第1次選考会実施：13団体が決定。 28日：リリース配信：最終選考会ノミネート13団体を発表。
2月	9日：最終選考会実施：最優秀賞・優秀賞決定。 13日・14日：京都大学大学院 コカ・コーラ環境ハウスを訪問・体験。 17日：大臣賞選考会(オンライン)：文部科学大臣賞・環境大臣賞決定。 26日：第27回コカ・コーラ環境教育賞 発表・表彰式を開催(オンライン、ライブ配信実施)。
3月	1日：第27回コカ・コーラ環境教育賞「最優秀賞・優秀賞・大臣賞決定」、リリースを配信。 6日～：東海大学 コカ・コーラ環境ハウスにて冬季環境保全学習を実施(～10日)。 11日：環境教育推進法「体験の機会の場合」認定を受けたコカ・コーラ環境ハウスにて、「教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修」を開催(主催：環境省 協力：文部科学省) 22日：理事会を開催。 29日：評議員会を開催。

第27回コカ・コーラ環境教育賞

2020年度休止し、見直しをした進化案に基づいて事業を計画しましたが、コロナ禍のため、募集、選考、表彰式までの一連の活動をリモートに変更して実施しています。表彰式典内で「コカ・コーラのサステナビリティ」および当財団の姿勢を常務理事が紹介し、社会への取り組み姿勢を広く伝達しました。

主 催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
協 力：読売新聞社
後 援：文部科学省、環境省



●実施スケジュール



●表彰部門

〔活動普及部門〕

対 象：①小学生およびその指導者
②中学生およびその指導者
募集内容：SDGs項目「14. 海洋資源」に関連した課題への解決へ向けた取り組みをおこなう団体・個人の活動

〔企画・研究推進部門〕

対 象：高校生、高専生、大学生、大学院生およびそれら学生を活動主体とする非営利団体
募集内容：コカ・コーラのサステナビリティ戦略「資源」領域から、「プラスチックのリサイクル・リユース」「食品ロスの削減」「食品廃棄物のリサイクル」の3項目のうち1つに関連し、その課題解決に寄与する取り組みや企画、研究など

受賞者発表・表彰式は、2月26日(土)にオンラインで開催、ライブ配信しました。



全国から33団体(活動普及部門：16団体、企画・研究推進部門：17団体)の応募が寄せられ、一次選考会でノミネートされた13団体から、最優秀賞(3団体)・優秀賞(7団体)・文部科学大臣賞・環境大臣賞の受賞団体が選ばれました。オンライン表彰式の模様は、ライブ配信され好評を得ました。

来 賓：文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課
青少年教育室室長補佐 山本 健司 様
：環境省 大臣官房 総合政策課 環境教育推進室 併任 民間活動支援室
企画官 浅原 堅祐 様

●表彰式の模様



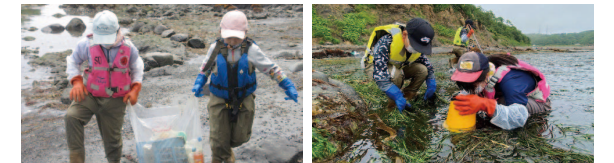
第27回コカ・コーラ環境教育賞 受賞団体紹介

〔活動表彰部門〕小学生の部

◎最優秀賞

浜中町立散布(ちりっぷ)小中学校

活動地域：北海道厚岸郡
主な活動内容：火散布(ひちりっぷ)沼の干潟である「あさり島」で稚貝の放流から漁協への出荷などを実践。



◎優秀賞

浜頓別町ジュニアガイドアカデミー

活動地域：北海道枝幸郡
主な活動内容：地域の観光資源の魅力を体験・学びから、積極的な観光宣伝・広報活動を実践する人材育成を実践。



南三陸少年少女自然調査隊

活動地域：宮城県本吉郡
主な活動内容：ラムサール条約湿地に登録の志津川湾を中心に、自然の恵みの保全とワイズユースへの貢献を実践。



〔活動表彰部門〕中学生の部

◎最優秀賞/文部科学大臣賞

只見町立只見中学校

活動地域：福島県南会津郡
主な活動内容：新聞紙レジ袋を制作。環境問題の啓発のためにメッセージ・カードを同封して配布。



◎優秀賞

石狩市立石狩中学校

活動地域：北海道石狩市
主な活動内容：「石狩海岸の環境学習」を10年以上継続。海浜植物や環境問題の調査、環境保全の提案を実践。



石垣市立崎枝小中学校

活動地域：沖縄県石垣市
主な活動内容：サンゴなどの海洋生物を死滅させるなど、海への赤土流出の問題解決を目指し、河川調査を独自に実施。



〔企画・研究推進部門〕

◎最優秀賞/環境大臣賞

中標津農業高等学校 肉加工研究班

活動地域：北海道標津郡
主な活動内容：エソシカをプロデュース2021～SDGsに基づいた「まるごと」活用の推進～



◎優秀賞

名寄産業高等学校 酪農科学科 道北酪農班

活動地域：北海道名寄市
主な活動内容：高オレイン酸含有廃棄物を活用した畜産物生産に関する研究

大野農業高等学校 果樹専攻班

活動地域：北海道北斗市
主な活動内容：果樹生産における規格外生産物の活用を目指して～ASIAGAPIに基づいた持続可能な果樹生産～

堺工科高等学校 定時制の課程

活動地域：大阪府堺市
主な活動内容：「捨てればゴミ、活かせば資源」プロジェクト～地域と被災地とともに～

コカ・コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の廃校(雨煙別小学校)を宿泊可能な施設として再生して10年。環境教育、教育のフィールドとして、「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」を自治体、地域社会と連携し、財団およびコカ・コーラシステムの目指す環境分野での達成すべきゴール、サステナビリティメッセージを対外的に発信する機会として活用しています。2021年度も、コロナ禍のため一時的に閉館、その後、宿泊体験学習は次年度へ延期やキャンセルなど、影響を受けています。栗山町教育委員会と福島県教育委員会との連携事業の英語キャンプ(オンライン)は延期になりました。



◎「環境教育等促進法」に基づく「体験の機会の場」に認定

「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、「環境教育等促進法」による「体験の機会の場」に北海道内ではじめて認定されました。環境省、北海道庁、北海道コカ・コーラボトリング社の協力のもと、申請を行い、正式に認定承認を受け、環境省の主導のもと4月9日に、環境省、北海道庁、環境ハウス、財団名にて、同時にリリースを配信しました。

【体験の機会の場】

環境教育等促進法に基づく「体験の機会の場」は、安全性の基準を満たし、質の高い体験プログラムを提供する体験活動の場となっており、全国で25の施設が認定を受けています。



環境省主催の「教職員等環境教育・学習推進リーダー養成研修」を開催(協力:文部科学省)

2022年3月11日・12日に、持続可能な社会の構築を目指して、学校や地域での質の高い環境教育、ESDの実現、推進するリーダー育成を目的に開催されました。全国から有識者、教育関係者が集まり、当財団の小澤紀美子理事が講師として協力しました。



大学ネットワーク

「環境マインドを持った次世代のリーダー」育成を目指し、コカ・コーラ環境ハウスを舞台に、フィールドワークを中心とした環境・教育プログラムを毎年、継続して実施しています。環境教育・環境保全プログラムのほか、街づくり推進活動として、広報活動の企画提案など学生ならではのアイデアを提供しています。

東海大学「冬季環境保全学習」2022年3月6日～3月10日



スノーシュー体験



越冬野菜の掘り起こし

京都大学大学院 コカ・コーラ環境ハウス訪問レポート

2022年2月13日・14日に、京都大学大学院地球環境学 准教授／京都超SDGsコンソーシアム代表 浅利 美鈴先生とメンバー3名の皆さまが、コカ・コーラ環境ハウスを訪問しました。参加した大学院生・留学生からの訪問レポート、浅利先生からも寄稿いただき、詳細は、コカ・コーラ環境ハウス、財団のホームページで紹介しています。

浅利 美鈴 先生

京都府出身。京都大学地球環境学准教授。「こみ」や「環境教育」「SDGs／持続可能なコミュニティ創出」などが研究テーマ。また、「びっくり!エコ100選」や「3R・低炭素社会検定」「エコ〜るど京大」「京都超SDGsコンソーシアム」「京都里山SDGsラボ(ことす)」などを立ち上げ、社会にムーブメントをおこすべく、実践・啓発活動や情報発信にも力を注いでいる。



オオムラサキ館では、国蝶であるオオムラサキの保護や栗山町で見られる自然について見学。



魚の量を増やすために川に放流する稚魚を育てている水族館を訪問。



栗山の里山や夕張川を訪問。

参加大学院生・留学生の寄稿(訪問レポートより抜粋)

京都大学農学部2回生／エコ〜るど京大 角本柚香さん

コカ・コーラ環境ハウスでは、普段の生活では触れる機会の少ない里山の暮らしを学んだり生きものの生態を調べたりする体験プログラムがあり魅力的だと思います。また、宿泊が可能な施設である点で、自然と親しむ拠点となっていることを実感しました。地域の方や栗山町を訪れる方と一緒に栗山町環境を作り上げていく「共創」の考え方に感銘を受けました。町民の協力のもとで自然保護を行うという地域一体となった活動の様子が伺えました。

※エコ〜るど京大とは、京都大学の学生と教職員からなる団体で、「持続可能なキャンパス」の実現に向けてキャンパス内外で活動を行っています。京都市北部の里山である京北では、廃校となった旧京北第一小学校を活用した施設、京都里山SDGs ラボ「ことす」を拠点に活動しています。

京都大学大学院地球環境学舎修士2回生／モザンビークからの留学生 Zulmila Acha(ズミラ・アチャ)さん

環境の持続可能性を達成できるかどうかは、私たちの自然やその資源を守り保存する意思にかかっています。環境教育は、すべての人が環境について十分な経験をして十分な知識を持つためのカギとなります。

この訪問の間に、地域レベルで実施されているいくつかの環境教育活動を深く理解することができました。対象は主に子供で、自然を愛し関わりを持ちながら大人になるためとても重要です。

よく知られているように、アフリカは生物の多様性が豊かな国です。しかし、人口増加や貧困のせいで、最近はその資源を過剰に搾取してしまい、生態系の破壊が起きています。

しかし、この経験から環境を守るために私の国(モザンビーク)でのこのような活動の実施にチャレンジさせてくれると思います。

い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト

水源保全プロジェクトを、2012年より9年間にわたり活動を継続しています(2015年度は除く)。2021年度も、コカ・コーラシステム 全社からの寄付金をもとに、当財団支部が連携して、全国各地で水資源の活動を行っている22団体へ助成しました。

青少年に対する教育支援

コカ・コーラの奨学支援事業は、1966年に開始しました。コカ・コーラが日本で事業を開始して11年目にあたり、当時、日本国内では大学進学率が平均して25%にも満たない時代でした。1970年からは全国のボトラー各社と日本コカ・コーラが共同で、毎年全国から推薦された成績優秀な高校生に大学在学期間中、返済及び将来の就職等についても義務がない奨学金を授与しています。2021年からは、大学院生への支援も開始、応募要項に「資源」領域に関する選考とし、専門性、研究者の人材育成としました。この事業は向上心あふれる学生に、教育の機会を提供するものとして55年間、継続して実施しています。

●事業方針・戦略に基づいた活動の方向

戦略と整合させた新たな事業方針のもと、対象者・人数・給付金額（支援内容）・選考方法・予算などについて、見直しを行い、支援対象者を、大学生に加えて大学院生（修士課程）も新設、あわせて給付額を増額いたしました。

選考方法についても、コカ・コーラシステムのサステナビリティ戦略の4つ重要なトピック（飲料容器に使用される資源、水、温室効果ガス排出量、再生可能エネルギー）について、研究内容の説明や研究成果の活用方法などをテーマに論述することなどを新しく追加しています。より専門的で、質の高い、熱意ある学生を選出することを目的としました。

新たな取り組みとして、応募手続きや選考、面接などもオンライン化を進め、運営面、管理面において効率化を図っております。

55年間で
合計2,479人の
卒業生を支援
しています。

2020年度に募集し、給付額を引き上げた2021年度奨学生30名が、新大学生、新大学院生（修士課程）として入学しました。また、オンラインシステムも本格導入し、昨年に引き続き、作業の効率化を図っています。2022年度入学する奨学生については9月より募集開始、大学生20名、大学院生10名、合わせて、30名を正式に採用しました。（2022年3月）



奨学生の声

専門性の高い知識や技術を周知、 啓発できる技師として地域医療に貢献

琉球大学大学院 保健学研究科保健学専攻
伊波興駿

現在、私は沖縄を始めたとした亜熱帯地域に植生しているBidens Pilosa (B.p. 和名：タチアワユキセンダングサ) という植物の持つ血管拡張作用についての研究を行っています。B.p. は血管拡張作用の他に抗酸化作用や抗炎症作用が知られており、民間薬として利用されてきました。現在、私は実験に使用する細胞の培養と先行研究の追加実験を主に行っており、他にも院生として講義の受講や学部生の指導など、大学院生として充実した生活をしています。将来、臨床検査技師として医療現場で働きたいという思いは、新型コロナ感染症の拡大でさらに強くなりました。抗原検査やPCR検査においては検体の採取、取り扱いなどの専門的な知識、技術を持つ職である臨床検査技師の重要性を強く感じ、また、市販の検査キットに関しては民間の方への啓発の必要性も感じました。専門性の高い知識、技術を有し、その知識や技術を周知、啓発できる技師として、地域医療に貢献して行きたいと思っています。現在は、まだ服薬治療中ですが、修士課程の修了と臨床検査技師国家試験の合格、そして就職の3つの目標を達成できるように、研究と勉強の両立を目指し頑張ります。

環境問題に携わりながら 国際的に活躍できる人材を目指して

獨協大学 経済学部国際環境経済学科
亀井ハンナ

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の2021年度奨学生として大学に入学にするとあたり今後の抱負を述べさせていただきます。今回、社会が困難な状況にあるなか、多くの大学生が金銭面で苦悩を抱えていますが、このような形で当財団から支援を受けることができ、とても感謝しています。この機会を与え、推薦していただいた学校の先生方、沖縄県支部の方々にも感謝申し上げます。私は将来、環境問題に携わりながら国際的に活躍できる人材となり、人と自然が平和に共存できる社会を作っていきたいという夢があります。大学では、人の活動の中心である経済を軸に国際的な視点で学び、社会問題に対する視野を広げながら、私が未来のために何をすべきなのか、どうアプローチしていくのかを探索していきます。予想外のことがあたりまえのように起こると実感しています。いまだからこそ、そのときの状況に柔軟に対応し、多くの人の支えに常に感謝の気持ちを持ちながら、大学生活を送りたいです。

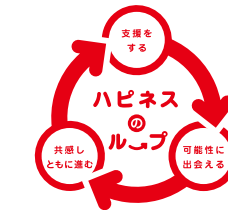
災害復旧・復興支援事業

近年、日本国内でも自然災害の多発、新型コロナウイルス感染症の影響などによる被害を受ける方々、被災された地域への迅速な支援を行うことが必要となっています。復興支援事業については、東日本大震災関連が2021年3月で終期を迎えました。

このような状況下、コカ・コーラシステムとして、公益財団法人の活動を拡大し、自然災害、新型コロナウイルス感染症等によって被害を受けた地域社会の復旧・復興を支援するため、「災害復旧・復興支援」事業を行うことといたしました。

「災害復旧・復興支援」の活動実施にあたり、「コカ・コーラ復興支援基金」の名称を「コカ・コーラ災害復旧・復興支援」事業とし、「事業名称の変更」「支援地域の拡大」「事業内容の拡大」に伴う申請を内閣府へ正式に届出を行い、11月に正式に受理完了しております。また、コロナ禍により、学校での開催が延期となっている「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」や「海外短期留学」などについては、各自治体、教育委員会や関係機関と連携して継続支援をしております。

つなげよう、ハピネス



活動実績

英語コミュニケーションスキル研修プログラム

新型コロナウイルス感染症の影響により、「オンラインによる研修プログラム」を2020年度延期した、福島県、熊本県の4高校にて実施しました。とくに直接留学が難しい状況の中で「バーチャル・ホームステイ」体験は大好評で、時差や文化の違いにスクリーンからも参加者の笑顔やワクワク感があふれていました。

〈実施校〉

東日本大震災
(対象：岩手県/宮城県/福島県)
支援期間：2011年度～

- 福島県立葵高等学校 (4月7日/2年生6名)
- 福島県立原町高等学校 (7月1日/2年生42名)

熊本地震
(対象：熊本県/大分県)
支援期間：2018年度～

- 熊本県立熊本北高等学校 (7月9日/2年生40名)
- 熊本県立人吉高等学校 (9月26日・27日・11月13日/2年生23名)

北海道胆振東部地震

厚真町・むかわ町・安平町
●スクールバスなどの寄贈
●ホームステイプログラム

東日本大震災

岩手県・宮城県・福島県
●英語コミュニケーションスキル研修プログラム

熊本地震

熊本県・大分県
●英語コミュニケーションスキル研修プログラム

英語コミュニケーションスキル研修プログラム実施校 合計37校

〈英語コミュニケーションスキル研修プログラムの概要〉

① ファシリテーターと留学生による
体験型プログラム(2日間)

② オリジナル教材による
自己学習プログラム

③ 英語観光ガイド実施研修(1日)：
バーチャル・ホームステイ体験

プログラム修了証を授与

北海道胆振東部地震の被災地3町を対象にした青少年育成・教育事業の助成

対象：厚真町、むかわ町、安平町 支援期間：2019年度～（安平町は、2020年度に助成を完了しています。）

厚真町・むかわ町

コロナ禍のため、海外への派遣・ホームステイプログラムは延期となりました。

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

< 理 念 > 心豊かでたくましい人づくり
(Healthy Active Life)

< 活動実績 > 参加者累計30万人以上

環境教育

地域社会、さらには国際社会において次世代リーダーとなる人材育成の支援を行っています。

コカ・コーラ環境教育賞

1994年から27年間の応募団体累計**2,359団体**

雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

2010年から11年間の利用者累計**約7万5千人以上**

奨学支援

次世代を担う青少年の育成を目的に、大学生・大学院生へ奨学金を給付し、生活・教育支援を行っています。

1966年から55年間の卒業生累計**2,479人**

災害復旧・復興支援

東日本大震災・熊本地震・北海道胆振東部地震の被災地支援に加え、2021年より、支援地域、内容を拡大し、さまざまな事業を行います。

太陽光発電・蓄電設備の設置助成設置校累計**55校**

ヤングアメリカンズ東北ツアー協賛参加者累計**3,100人以上**

スクールバスの寄贈**9台**

米国・英国でのホームステイ研修参加者累計**333人**

英語コミュニケーションスキル研修プログラム参加者累計**1,495人**

スポーツ教育

青少年を対象に、次世代の育成と指導者育成

コカ・コーラ出前かけっこ教室/出前体育の授業などで

2009年から9年間の参加者累計**7,363人**

< 活動方針 > 2020年、コカ・コーラシステムのサスティナビリティ戦略の新規策定を受け、また国際社会共通の目的であるSDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) の推進を図るために主要事業活動の見直しを行い、環境分野、特に「地球環境・環境資源」の領域の向上に寄与する人材を育成することを事業方針としました。

●コカ・コーラシステムのサスティナビリティ戦略
日本コカ・コーラとコカ・コーラボトラーズジャパンは2019年、サスティナビリティのグローバル目標達成に加えて、日本独自の課題をベースにした戦略を立案し、コカ・コーラシステム共通のアクションプランへ落とし込むことを目的に、サスティナビリティの課題抽出と優先順位の特定のための大規模な共同調査を行いました。その結果、「多様性の尊重(Inclusion)」「地域社会(Communities)」「資源(Resources)」の3つのプラットフォームと直近に取り組むべき9つの重点課題が合意されました。

	多様性の尊重	地域社会	資源
優先事項	ジェンダー	・全国規模で行う2つのプラットフォーム(多様性の尊重、資源)で影響力を発揮	容器 / PET
	年齢 / 世代		水
重点事項	障がい者支援	・持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み	温室効果ガス排出量
	LGBTQ		再生可能エネルギー

財団においては、「資源」を主要テーマとして環境教育事業と奨学生支援事業の進化したプログラムを策定。

[環境教育事業の方針] 持続可能な資源活用の向上に寄与する活動の実施や活動推進のリーダーシップを発揮できる青少リーダーの育成。

[奨学支援事業の方針] 奨学支援事業を活用し環境分野、特に「持続可能な資源活用」の向上に寄与する人材の育成。

9

◎2021年度「い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト」助成先 22団体一覧

財団支部名	県	活動場所	団体名
北海道支部	北海道	札幌	札幌ふれあいの森友の会
みちのく支部	岩手県	花巻	豊沢川土地改良区
北陸支部	富山県	砺波	富山県(農林水産部森林政策課)
	石川県	石川県	公益財団法人 石川県緑化推進委員会
	福井県	福井県	公益社団法人 福井県緑化推進委員会
	長野県	長野県	長野県(長野県林務部森林政策課)
	山梨県	北杜市	北杜市
コカ・コーラ ボトラーズ ジャパン 支部	宮城県	蔵王	白石蔵王森林組合
	埼玉県	利根川源流	特定非営利活動法人 利根川源流森林整備隊
	神奈川県	厚木市森林組合	厚木市森林組合
	愛知県	恵那中野方水源の森実行委員会	恵那中野方水源の森実行委員会
	東京都	多摩地区	財団法人東京都農林水産振興財団 花粉の少ない森づくり
	茨城県	つくばね森林組合	つくばね森林組合
	京都府	京都	宇治田原町森林組合
	兵庫県	明石	兵庫県森林組合連合会
	鳥取県	大山	鳥取日野森林組合
	広島県	本郷	尾三地方森林組合
沖縄支部	佐賀県	基山町	佐賀東部森林組合
	熊本県	熊本	公益財団法人 阿蘇グリーンストック
	宮崎県	えびの	西諸地区森林組合
	愛媛県	愛媛県西条市小松町(小松工場)	いしづち森林組合
	沖縄県	沖縄県	首里城公園友の会

10